

重度身体障害者のICTを駆使した就労支援
～医療・介護・福祉の連携を通じ、ケアを効率化して社会参加へ～

○伊藤佳世子(社会福祉法人リべるたす 相談支援専門員)

はじめに

医療的ケアがある方も近年は就労意欲がある方も増えてきている。重度身体障害者をめぐる就労の状況は、自力通勤ができない、勤務中にケアが必要等の方は就労が困難であった。

また、在宅就労では、請負仕事が多く、常勤での採用に前向きな企業は少なかった。

コロナ禍でテレワークを推奨する動きがあり、ICTを駆使した就労が国を挙げてすすめられている。

このことは通勤やケアが必要な障害のある方の就労環境としてかなりの追い風となっている。そこで今回は、医療的ケアのある重度身体障害者の就労支援の事例を振り返り、連携に必要なことを整理した。



A 氏の基本情報

- 40代男性、2015年にALS（筋萎縮性側索硬化症）を発症、通勤困難となり在宅就労へ。
- 2017年に気管切開、人工呼吸器装着、胃ろう造設となり、休職。
- 復職を目指し、環境調整を行う。
- 休職後に週5日1日6時間程度グループホームのベッド上で就労。



就労環境調整 シート案作成

	項目	内容	情報収集先
1	日常生活の確立、 体調管理	①本人は無理のないスケジュールで就労できているか	本人
		②本人は医師に就労について相談ができているか	
2	作業姿勢の保持について	①作業はベッド上がよいか車いす上か、両方利用した方がよいか	医師、セラピスト等
		②一日6時間(2時間×3)勤務について医学的に支障はないか	医師
		③専門職によるシーティング(作業中の長時間の姿勢の確認)が行われているか	医師、セラピスト等
3	作業環境について	①デスクの高さは適切か	本人、セラピスト、 就労支援員等
		②入力デバイスの選定は適切か	
		③キーボード等の配置は適切か	
		④アームスリング等の補助具の選定は適切か	
		⑤自助具等の選定は適切か	
4	PC等IT環境について	①端末に不具合はないか	本人、企業(就労 予定先)、就労支 援員等
		②周辺機器に不具合はないか	
		③補助のためのソフトウェアが必要な場合インストールされているか	
		④LAN、Wi-Fi等インターネット接続環境に不具合はないか	
		⑤秘密保持が可能か(画面のオフ機能が即座に使えるか等)	
5	連携機関について	①定期的に環境に問題がないか評価を行う体制ができているか	本人、企業(就労 予定先)、就労支 援員等
6	コミュニケーション	コミュニケーション方法の確立はできているか(メール、電話、Skype等)	本人、企業(就労 予定先)、就労支 援員等

表は項目を載せてあるが、各項目に対し○、△、×で評価し、特記事項に記入ができるようにしている。

勤務時間：

平日9時～18時半（うち2時間ケア休憩）

ヘルパーに頼む仕事の部分： パソコンのセッティング

メールで1日6回～10回くらい会社とやり取り

仕事を行う上でとても大切にしていること



「時間厳守」

結果 働く環境づくりのための各職種の間わり

医師、看護師：人工呼吸器の調整、投薬の調整、非医療職でのケアができる体制づくり(緩和の薬が抜けて、就労可能となる)

リハ職：シーティング、ポジショニング、PC入力スイッチの選定とセッティング

相談支援専門員：ご本人の「働きたい」という意欲を理解し、周囲に伝え、そこから支援体制を組む。週30時間以上、働けるよう調整を行う。

グループホーム職員：吸引やケアを効率的に行い、本人の仕事に関する書類やPC画面を見ないことを徹底。



まとめ

- 就労環境調整シートは就労を目指す重度障害者に対して試行しながら、当事者、関係者から様々な助言を頂きブラッシュアップを進めたい。
- また、再評価のタイミングや方法についても検討したい。
- どのように調整するかということについて、他法人の他職種多くの連携事例を集積し検討したい。

